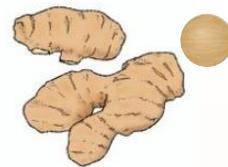




ショウガの病害虫防除対策について



ショウガ栽培で特に重要な病害は、**根茎腐敗病**です。この病気は、前作の罹病した残渣が越冬して土壌伝染する他、感染した種ショウガを圃場に植え付けることで発生します。さらに、雨で圃場が浸冠水した場合に多発生し、感染株が拡大します。

防除対策として、①感染していない健全な種ショウガの使用、②発病圃場の土壌消毒、③圃場排水性の改善や高畦栽培、④発病株の早期発見・早めの除去、⑤生育中の有効薬剤の予防散布や発病初期の防除徹底などが必要になります。生育中の防除対策として、下記の表1を参考に、**梅雨期などは特に防除を徹底してください。**その他、病害では紋枯病、白星病、軟腐病などが発生することがあります。



根茎腐敗病の病徴

害虫では**アワノメイガ**などの幼虫が茎内に食入して萎れや芯枯れを生じ、多発すると株が枯死します。アワノメイガの幼虫は6月頃より発生し、食入した茎の穴から鋸くず状の虫糞を出すのが特徴です。**被害は7月後半頃から目立ってきます**ので、早期発見と防除の励行が重要になります。その他では、ハスモンヨトウが8月後半頃より発生し、高温少雨の年に多発生する傾向があります。

表1 ショウガ根茎腐敗病の主な防除薬剤 (令和6年6月20日現在)

薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
オラクル顆粒水和剤	2,000倍 (1~3ℓ/m ² 土壌灌注)	生育期 但し収穫3日前まで / 3回以内	21
	または3,000倍 (3ℓ/m ² 土壌灌注)		
プレビクールN液剤	400~600倍 (3ℓ/m ² 土壌灌注)	生育期 収穫30日前まで / 5回以内	28
ユニフォーム粒剤	18kg/10a (生育期土壌表面散布 または定植前作条土壌混和)	収穫30日前まで / 3回以内	11と4
ランマンフロアブル	500~1,000倍 (2~3ℓ/m ² 土壌灌注)	生育期 但し収穫30日前まで / 3回以内	21
	または500倍 (1~3ℓ/m ² 土壌灌注)		
オーソサイド水和剤80	塊茎重量の2%を塊茎粉衣	植付前 / 1回	M04

注) 表1および2の分類欄にはFRAC、表3にはIRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 ショウガ紋枯病、白星病、軟腐病の主な防除薬剤 (令和6年6月20日現在)

薬剤名	対象病害			希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
	紋枯病	白星病	軟腐病			
Zボルドー			○※	500~1,000倍	- / -	M01
トリフミン水和剤		○		1,000倍	収穫前日まで / 5回以内	3
オーソサイド水和剤80		○		600倍	収穫3日前まで / 2回以内	M04
モンカットフロアブル40	○			2,000倍	収穫3日前まで / 6回以内	7
ダコニール1000	○	○		1,000倍	収穫14日前まで / 5回以内	M05
バリダシン液剤5	○			800倍	収穫14日前まで / 4回以内	U18

※: 野菜類での登録

表3 ショウガのアワノメイガ、ハスモンヨトウの主な防除薬剤 (令和6年6月20日現在)

薬剤名	対象害虫		希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
	アワノメイガ	ハスモンヨトウ			
アクセルフロアブル	○	○	1,000~2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	22B
コテツフロアブル		○	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	13
スカウトフロアブル	○		1,500倍	収穫前日まで / 5回以内	3A
デミリン水和剤	○		1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	15
プレオフロアブル		○	1,000倍	収穫前日まで / 2回以内	UN
フェニックス顆粒水和剤	○	○	2,000~4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	28
ロムダンフロアブル		○	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	18
トルネードエースDF	○	○	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	22A
パダンSG水溶剤	○		1,500倍	収穫7日前まで / 5回以内	14

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。